

施工要領書

床下物入れ マンション用 600型 (BMS1 600/SMS1 600)

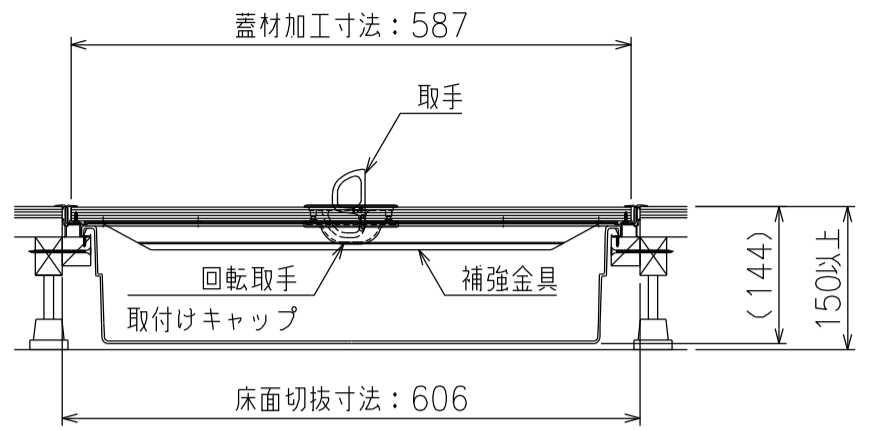
⚠ 設置場所および注意事項

- 床高さ(フローリング天井～スラブ)は150mm以上必要です。
- 開口はパーティクルボードの端部を起点にしないでください。
パーティクルボードの開口が広くなり、床の強度が保てません
- 床下配管と干渉しないことを確認してください。
- 蓋板上のフローリング材継ぎ目は蓋板たわみを抑える為、同一方向のみとしてください。
- 支柱は必要数以上施工しないでください。

⚠ 使用上の注意

- 指をはさむ恐れがありますので、蓋を開けた際は横に置いてください。
- 床面や部材を傷つける恐れがありますので、横に置いた蓋の上にはのらないでください。
- 転倒や落下の恐れがありますので、使用後はすぐに蓋を閉めてください。

納まり参考図



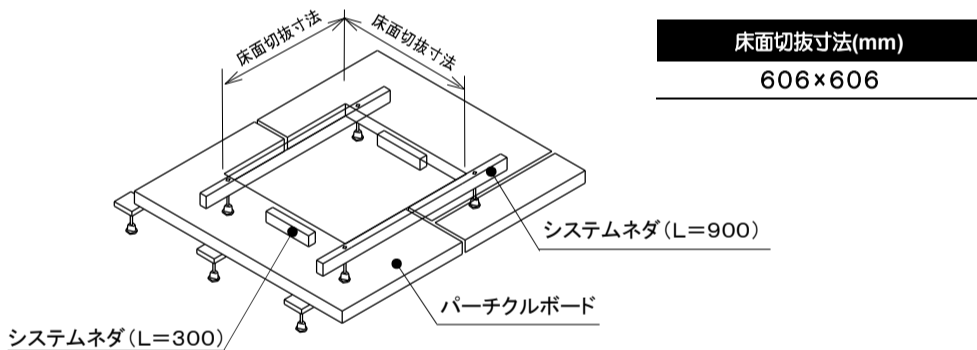
1. 付属部品

付属部品名	入数	付属部品名	入数
取手	1	補強金具	1
回転取手取付けキャップ	1	なべタッピンねじ (4×12)	4
なべ小ねじ (M4×16)	2	補強合板	1
平座金 (呼び径4)	2	補助根太	4
さらタッピンねじ (3×12)	16		

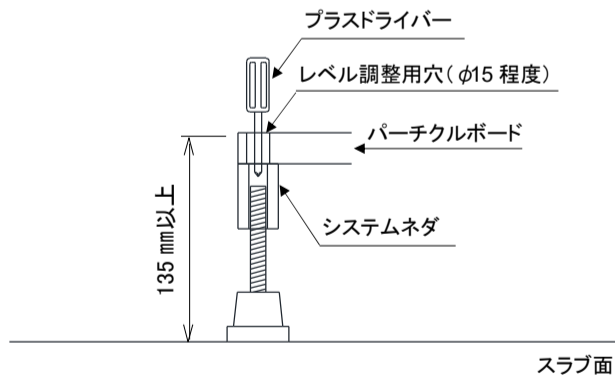
2. 床組み I

【新築工事の場合】

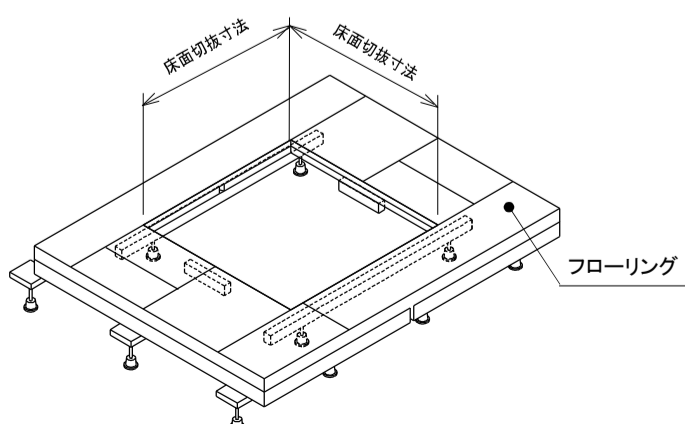
- ①パーティクルボードを施工後、床面切抜寸法で床下物入れを設置する床面を開口します。
※パーティクルボード天井面からスラブ面まで135mm以上を確保してください。
- ②支柱および防振ゴム型をシステムネダL=900(別途)に取付けます。(ねじ式)
- ③開口部に沿って、システムネダL=900(別途)およびL=300(別途)をパーティクルボードにビスや釘などで取付けます。
このとき、L=900(別途)は2枚のパーティクルボードをまたぐように対向2辺に取付け、残りの2辺にL=300(別途)を取付けます。
※配管に干渉するなどしてシステムネダが入らない場合、L=900は中心振り分けて750mmまでカット可能です。



- ④取付け後、パーティクルボードにレベル調整用の穴(φ15程度)を開けて、プラスドライバーにてレベル調整を行います。
パーティクルボードの水平を確認後、レベル調整穴よりスラブ固定タイプ接着剤を流し込んで固定します。



- ⑤フローリングを施工後、パーティクルボード開口部に合わせてフローリングを開口します。
⚠パーティクルボードの開口とフローリングの開口がズれている場合は、カンナやノミなどでパーティクルボードを削って、開口部をフローリングに合わせてください。



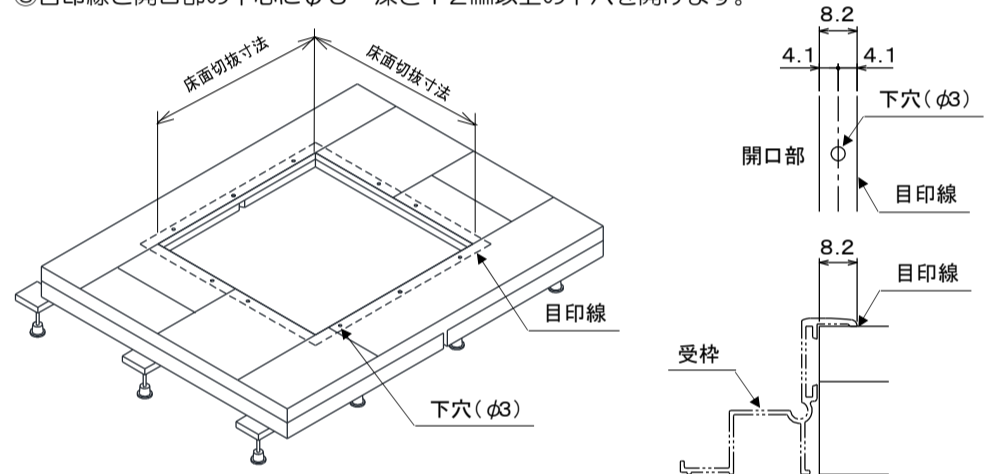
⚠ 切抜いた床材は、蓋材に使用してください。

【改築工事の場合】

※必須事項

工事を始める前に、必ず竣工図面などで配管などが下に無いこと、床高さが150mm以上であることを確認してください。
配管が干渉する場合や、床高さが150mm無い場合は施工できません。
上記が確認できない場合は工事を中止してください。

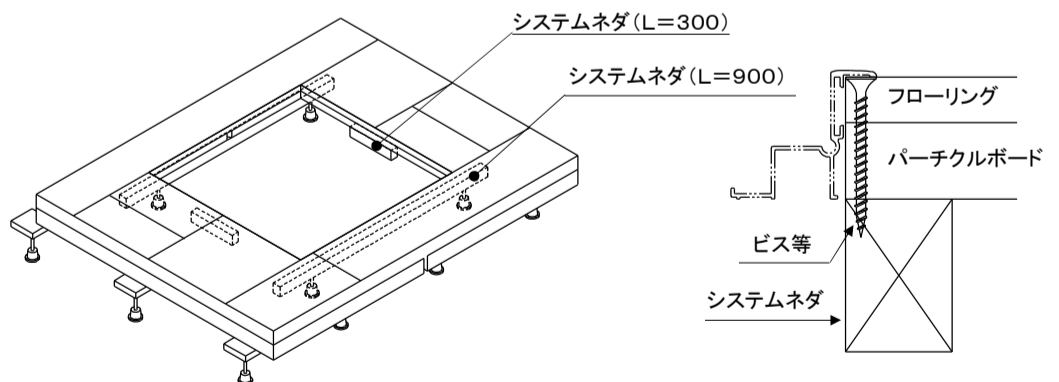
- ①床面切抜寸法で床下物入れを設置する床面を開口します。
- ②床面開口部に受枠を仮置きし、受枠の外周に沿ってフローリングに鉛筆で目印線をつけてください。
- ③目印線と開口部の中心にφ3・深さ12mm以上の下穴を開けます。



⚠ 切抜いた床材は、蓋材に使用してください。

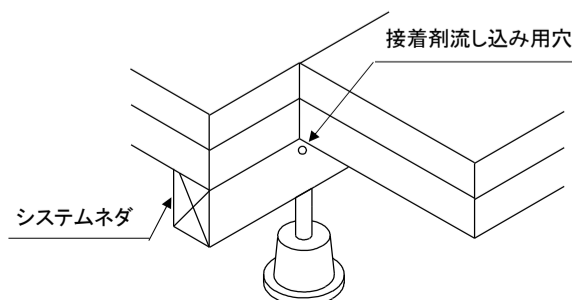
- ④支柱および防振ゴム型をシステムネダL=900(別途)に取付けます。(ねじ式)
- ⑤下穴を利用して、システムネダL=900(別途)およびL=300(別途)をビスや釘(長さ40mm以上)で取付けます。
このとき、L=900(別途)は2枚のパーティクルボードをまたぐように対向2辺に取付け、残りの2辺にL=300(別途)を取付けます。
※配管に干渉するなどしてシステムネダが入らない場合、L=900は中心振り分けて750mmまでカット可能です。

- ⚠必ず下穴を開けてください。
フローリングが割れることがあります。
- ⚠ビスや釘の頭はフローリングと水平にしてください。
受枠が浮き上がります。
- ⚠頭径φ8以下のビスや釘を使用し、頭が目印線内に入るように施工してください。
受枠からはみ出します。



- ⑥取付け後、防振ゴムを回してレベル調整を行ってください。
フローリングの水平を確認してからシステムネダの側面にφ4mm程度の接着剤流し込み用穴を開けてください。

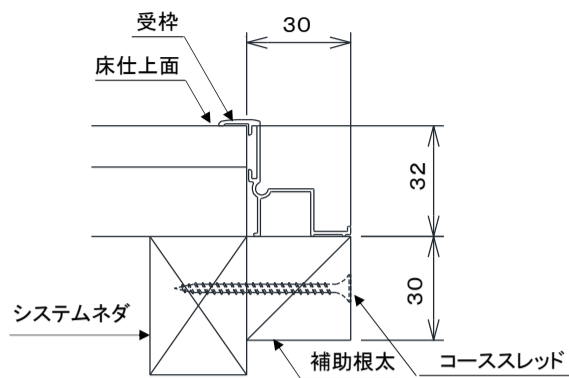
- ⚠その穴から、スラブ固定タイプ接着剤を流し込んで固定します。
- ⚠接着剤流し込み用穴はシステムネダの穴に向かって開けてください。
- ⚠接着剤流し込み用穴は支柱上部より上に開けてください。



裏面へ

3. 床組みⅡ

- ①床面開口部に受枠を仮置きします。
 - ②床仕上面から32mmの段になるように、付属の補助根太をまわします。
このとき、開口の中心と補助根太の中心を合わせてください。
- ⚠補助根太のレベルが出ていないと受枠が破損することがあります。
⚠補助根太は4辺とも施工してください。
⚠補助根太はコーススレッドで取付けてください。

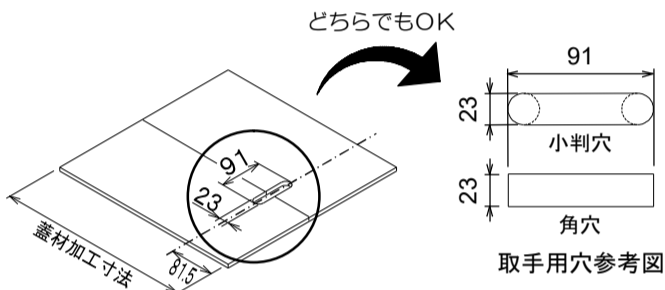


4. 蓋材の加工

- ①蓋材加工寸法に、蓋材（切り抜いた床材）を切断します。
- ②蓋材の裏面に接着剤を塗布して、付属の補強合板と接着します。
※このとき、蓋材厚みの合計が15mmになるようにします。
- ③下図のように端から81.5mm・センターの位置に取手用の口、小判穴または角穴（23×91）を設けます。

蓋材加工寸法(mm)
587×587

⚠板材で継ぎ目がある場合は、継ぎ目が中央にくるように切断してください。

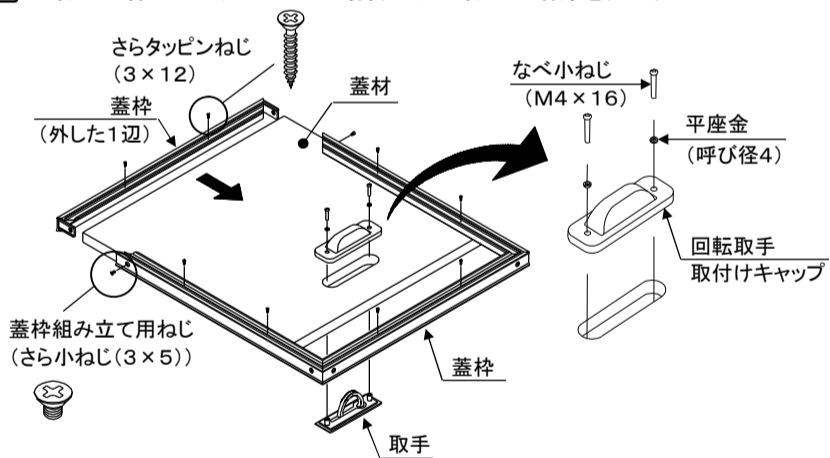


※取手用の開口は小判穴または角穴（どちらでも可）

取手用穴参考図

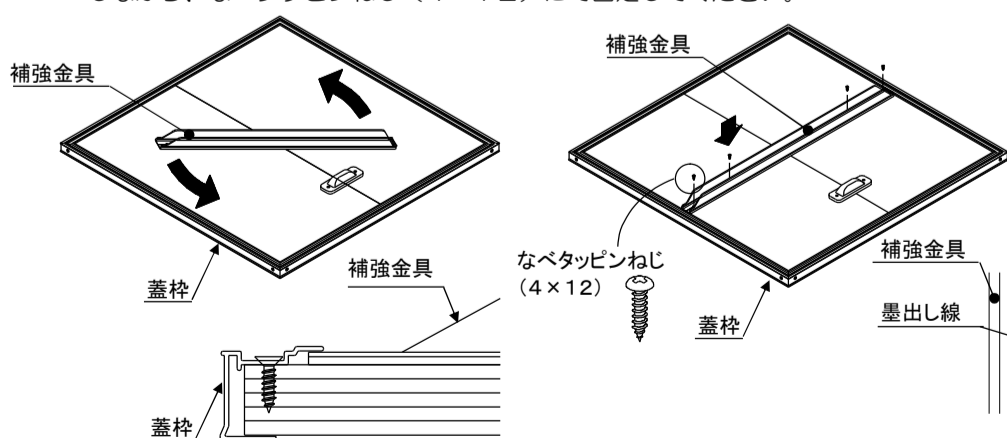
5. 蓋の組み立て

- ①蓋枠の1辺を外します。
このとき、外す辺の左右2辺の蓋枠組み立て用ねじ（2箇所）を外してください。
 - ②加工した蓋材をスライドさせて蓋枠に入れます。
 - ③蓋枠の外した1辺を再度組み立てます。
 - ④蓋枠裏側よりさらタッピンねじ（3×12）で固定します。（各辺2箇所×4辺：計8箇所）
 - ⑤蓋材になべ小ねじ（M4×16）で、取手と回転取手取付けキャップを取り付けます。
- ⚠蓋材が蓋枠にはめ込みにくい場合は、蓋材小口端部を少し面取りしてください。



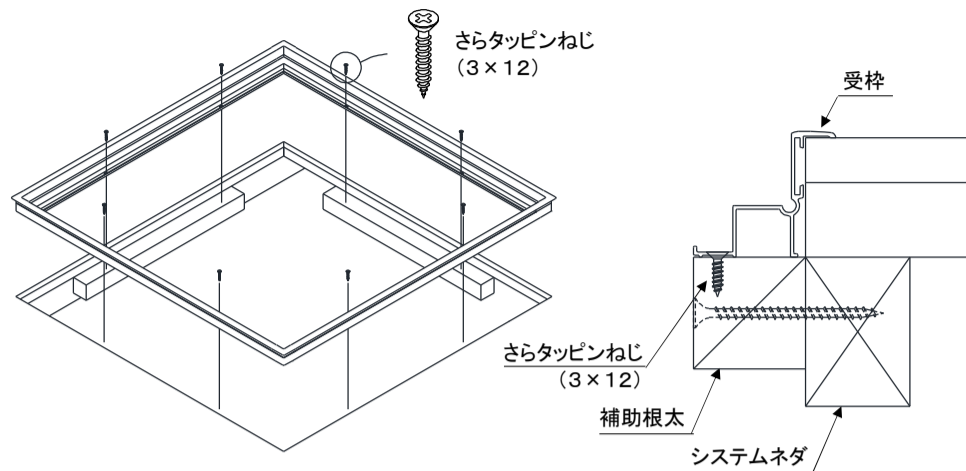
6. 補強金具の取付け

- ①蓋材の裏面に中心に墨出しを行います。
※このとき、板の継ぎ目と直角になるようにしてください。
- ②補強金具を回転させ、端部を蓋材の裏面と蓋枠との間にはめ込みます。
- ③補強金具を①の線上に置き、補強金具のねじ穴の中央を墨出し線が通っている事を確認しながら、なべタッピンねじ（4×12）にて固定してください。



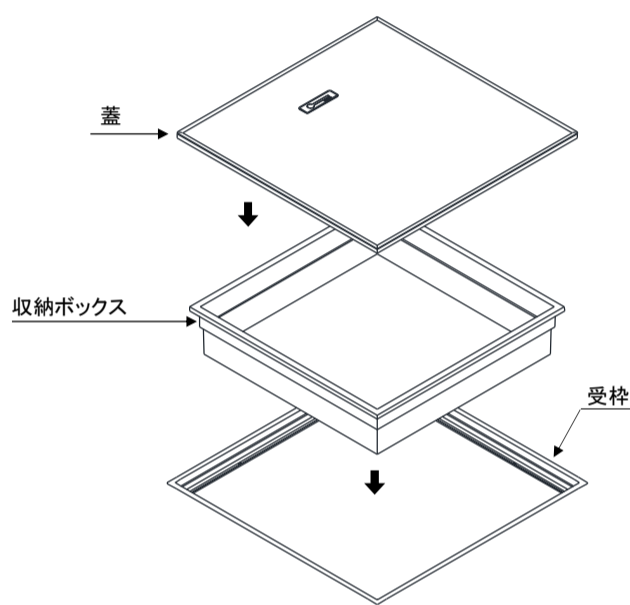
8. 受枠の取付け

- ①受枠を、開口した床面にはめ込みます。
 - ②受枠と床面、受枠と補助根太の間に隙間が生じないように注意し、さらタッピンねじ（3×12）で補助根太に固定します。（各辺2箇所×4辺：計8箇所）
- ⚠蓋および受枠の対角寸法差は、必ず対称の対角寸法と同寸法になるように施工を行ってください。



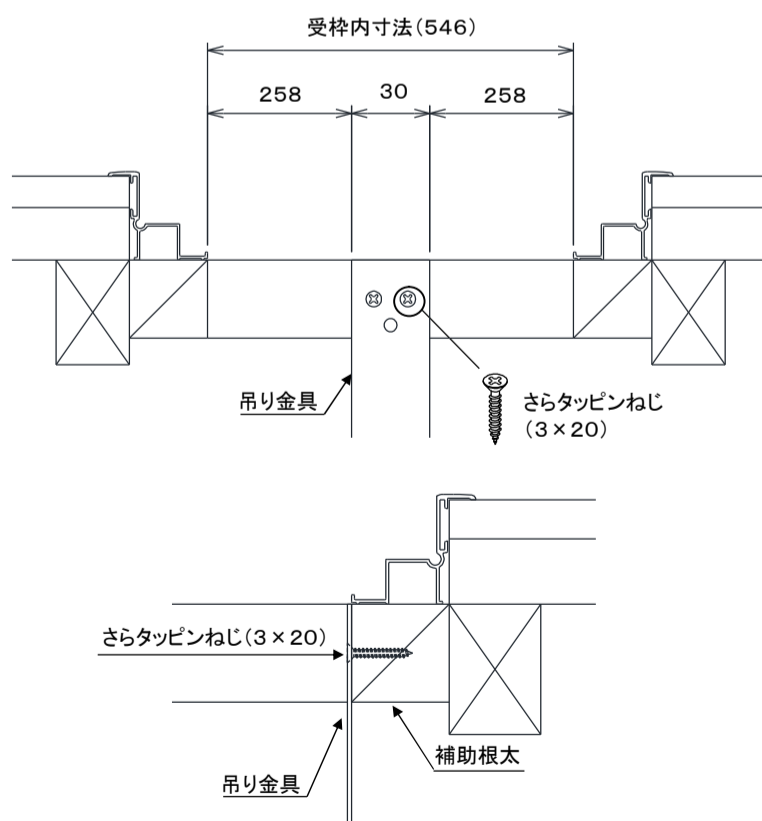
9. 収納ボックス・蓋の取付け

- ①収納ボックスを受枠に確実に引っ掛けるようにはめ込みます。
⚠収納ボックスは受枠に引っ掛かる構造になっていますので、確実に引っ掛かっている事を確認してください。
- ②蓋をはめ込みます。



吊り金具の取付け【オプション】

- ※床高さが180mm以上必要です。
- ①吊り金具を受枠内寸法の中央、補助根太天面に合わせて、さらタッピンねじ（3×20）で固定します。（片側2箇所：計4箇所）
- ⚠反対側も同様にねじ止めします。



☆施工のポイント

ねじ固定時、吊り金具が宙に浮かないよう、吊り金具下側に受けを置くと施工が容易になります。

■製品に関するお問い合わせ・ご相談は
お客様相談センター

タキロンシーアイ株式会社

0120-877-115 (受付時間 平日 9:00~17:00)

※土・日・祝日・年末年始・お盆は休みをいただいております。
※間違い電話が増えておりますので、番号はよくお確かめのうえ、おかけください。